

月刊ウィーン GEKKAN-WIEN

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙
創刊平成元年 創刊29年目
創刊1989年 Nr.331

2017年2月号



Tina Blau, Frühling im Prater, 1882 Öl auf Leinwand 214 x 291 cm © Belvedere, Wien

ウィーンの女流画家 ティーナ・ブラウ (1845-1916) 「プラーターの春」(部分) 1882年 ベルヴェデーレ上宮「ティーナ・ブラウ」展にて2017年4月9日まで展示



杉本純の原子力の話II ウィーンと京都 64



三年半程前になるが、中国ハルビン工程大学の招待により、ハルビンや北京で開催された国際会議で講演したことがあった。その縁で、平成二六年から三年続けて同大学が主催する雪像コンクールとシンポジウムに京都大学の学生が招待された。今年も京大に招待があったが、チーム結成に必要な四名

が集まらなかったため、現在筆者が務める東工大に話があった。早速募集したら、赤塚研究室の修平、川村隼君、菊池浩司君、森田雄貴君の三名が集まったが、もう一名が足りない。再度京大に相談したところ、四回生の近岡旭君が手を挙げたので、両大学の混成チームを派遣した。一月四日〜六日に開催された雪像コン



クールには地元中国を中心に十一ヶ国から九五大学、我が国からは他に高知工科大が参加した。六日に開催されたシンポジウムにはハルビン工科大、東大京大、韓国科学技術院から各四名が参加し、各二、二、二テーマの発表と討論が行われた。

雪像コンクールでは、三×三×三、五×五×五の雪ブロックを丸三日間かけて削って像を作る。我が国からは他に飛行機の遅れでハルビン到着が午前三時、マイナスイシ度の寒さなど厳しい状況下、外国チームの世話をしてくれるボランティアの協力もあり、「となりのトトロ」像を作り上げ、優秀賞を獲得した。また、原子力シンポジウムでも研究発表で存在感を

示し、討論にも積極的に参加し、宿泊した国際寮やシンポジウムでも他国の大学生との交流機会を多く持つことができた。今回参加したメンバーはハルビンが皆初めてで、珍しい料理やボランティアの案内で世界的な雪祭りや市内観光も楽しむことができ、貴重な良い体験ができて参加して本当に楽しかった、と学内報告会では笑顔で語っていた。本年も、吉川榮和京大名譽教授が主宰されるシンビオ社会研究会のご好意により旅費を負担して頂いた。紙上を借りてお礼申し上げます。

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市の医学系大学について述べてみたい。ウィーン医科大学は二六五年創立のドイツ圏では最古、最大の大学であるウィーン大学の医学部が独立して二〇〇四年に創立された。学生数は八千人超で、七の大病院、三つの臨床研究所、二の理論医学センター、数多くの高度専門研究室を有する。ミューラー学長によれば「知識の獲得、伝達、適用」が大学の三天課題とのことである。入学生数は約六〇〇〜七〇〇人であるが、入学試験がなかった一〇〇八年以前には入学者は二千人もあり、年毎に学生数を極度に絞ったという。病院実習を主に行うウィーン総合病院(AKH)は、医師数約二五〇〇人、病床数約二〇〇〇床と欧州でも最大規模である。大学も病院も高度医療の研究と実践を目指している。

一方、一八九九年創立の京都大学医学部は、学生数は約二五〇〇人、十二の附

属教育研究施設を有する。上本医学部長によれば、「好奇心、挑戦、継続」が学部精神としている。医学科の定員は一〇七人、東大医学部医学科と並び入学は全国最難関である。附属病院は医師数約千人、病床数約千床である。もう一つの京都府立医科大学は、一八七二年建学と我が国でも最古の医科大学のひとつである。吉川学長によれば、「世界のトップレベルの医学を地域へ」がスローガンである。学生数は約二四〇〇人、五つの附属施設を有する。医学科の定員は〇七人で、偏差値は京大の他の学部より高い位である。附属病院は医師数約五百名、病床数約千床である。両市の医学系大学は、優秀な人材を輩出するともに、地域の高度医療を支えているのが似ている。

余談であるが、筆者がウィーン赴任時にソフトボールの試合でボールが足を直撃し、AKHで診察してもらったことがある。また、京大在学中には、教養の英語クラスで医学部の女子学生と一緒だったり、二年前も京大病院で診断書を作成してもらった縁があった。両市の医学系大学を紹介できた幸運に感謝しつつ、編集部に依頼したウィーン医科大学の写真掲載させていたただく。



■杉本純 東工大特任教授 前京大教授 元原子力機構ウィーン事務所長 ■